

みんな楽しくスポーツを

松山 聖カタリナ大でイベント

学生が競技考案 障害者と交流

2人一組でゴールを狙う「手つなぎサッカー」で盛り上がる参加者



知的障害者のスポーツ団体「スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛媛」のメンバーと聖カタリナ大の学生がスポーツを楽しみ交流するイベントが20日、松山市北条の同大であった。家族を含む約100人が学生考案の競技などに汗を流した。

学生は、健康社会学部健康スポーツ学科3年の12人。今城遥助教が指導し、障害の有無

だけでなく年齢や体力などにも関係なくできるようルールや道具を工夫する「アダプテッドスポーツ」の考えを基に、1カ月ほど前から準備を重ねてきた。

輪っかを握り2人一組でゴールを狙う「手つなぎサッカー」では、参加者は初めはぎこちない動きだったが、学生案内でこつをつかむと笑顔で楽しんでいた。最後は2チームに

ドッジボール」などにも挑戦した。
SO日本・愛媛の仙波陽介さん(33)は「フア卓球バレーが簡単でうまくできた」と笑顔だった。同大の重岡楓実さん(20)は「一生懸命、挑戦してくれているのが伝わり、やりがいを感じた」と話した。
SOは1968年、知的障害者の社会参加などを目的に米国で誕生した。20日は創設者の功績を記念した「EKSデー」に当たる。SO日本・愛媛は、県内各地で月2回程度、バドミントンや水泳、陸上などの競技を行っている。
(香川華代)